

TAKE OFF!

2017.01.01

いんくる通信 No.4

あなたのはたらきたいをかたちに 社会福祉法人武蔵野 ジョブアシストいんくる

◎就労移行支援事業の役割と課題

ジョブアシストいんくるは就職を目指す障害のある方を支援する「就労移行支援」を行っています。サービス提供期間は2年間までという利用年限が設けられています。

人によって育つ速さは異なるのが当たり前で就職のタイミングも人それぞれであるべきではないか。そんな中で2年で決断を強制されるのはどうか。本人の「こんな仕事をしたい」という希望を叶えるのに2年では足りないことが多い。などさまざまな指摘がされています。

事業の運営面からも、利用する方の入れ替わりが多く、利用数の変動がそのまま事業収入の変動につながる今の仕組みは安定した経営の妨げになっているといわれます。いんくるでも今年度4月から今までの間に10人が就職等の理由で利用を終了し、13人が新たに利用を始めています。効果的な支援提供の結果として就職者が出ることで利用数の減少になり、それが事業収入の減少に直結することになるわけで、根本的な給付の在り方に疑問を呈したくもなります。

一方で、年限があることが支援をするうえで重要な役割を果たしている面もあります。人の一生の中で時間が有限であることは万人共通です。人生をいつまでも「準備」に費やすのではなく、早く自分なりのスタートラインに立つことが大切です。就職はスタートライン立つことです。そこから新たな段階の成長や自己実現が始まります。就職する前に身につくことより就職した後獲得することのほうが多いのは自明のことです。拙速になることに気を付けながらも、求められる節目で適切な決断をしていくことは充実した人生を送る上では大切なことです。支援に当たってはそこも大切にしていきたいと考えます。

平成30年度からは、新たに「就労定着支援」という事業が創設される予定です。これは職業生活を継続していくうえで生活支援も含めて必要な支援を提供しようとするものです。

一般的に「就職した後、定着にほとんど支援が要らないこと」が良いと考えがちですが、「多方面から可能な範囲の支援を受けながら職業生活を継続すること」が目標になってもよいと考えます。障害のある方は就職したのちは、支援機関からの「可能な範囲の支援」に加えて、雇用主からも「合理的配慮」という形で一定の支援を受けながら仕事を続けていくことができます。それを念頭にマッチングを行うことで本人の選択の幅も格段に広がりますし、本人の目指す自己実現により近づけると考えています。(鈴木 誠)

◎就職された方から皆さんへ

2017年の年頭に当たり、いんくるから企業に就職された方から皆さんへのメッセージをいただきました。

就職して2年。仕事はとても楽しいです。勝又さゆり

私は現在の仕事についてから約2年半が経ちます。業務内容は厨房で食器洗浄を主に行っています。仕事を始めた頃は、職場の人が優しく接してくれるかどうか不安がありました。ですが、厨房の方やレストランの方はいつも声をかけてくれました。半年くらいで職場に慣れていき、今は安心して仕事をしています。

お店が忙しい時は時間内に終わらないのではないかと焦り、ペースがつかめずに困ることが多いです。そんな時、職場の人が「ゆっくりでいいよ」と声をかけて下さり、手伝ってくれることもありました。嬉しかったです。お店が混んでいる時は皆が忙しいので、次のランチ準備に影響がないように、朝食の洗浄を最後まで終わらせてから休憩に入るようにしています。長く働いている間にやりがいや、責任感を持って働けるようになりました。

今はまだ焦ってお皿を割ってしまうことがあるので、落ち着いて仕事をするのが目標です。仕事はとても楽しいです。(吉祥寺東急REIホテル)

就職活動を終えて学んだこと

K.S.

私はいんくるに約1年間通所しました。初めは慣れない環境でどうしたらいいか迷ったりしましたが、みなさんが優しく話しかけてくれてすぐに慣れることができました。いんくるのプログラムや作業センターけやきを通して一番良かったことはきちんと自己分析ができたことです。私自身の能力(長所・短所)やスキル(PCスキル・計算能力)、障がい特性や病状などを知ることで、自分自身を理解することができました。そのことで、自分が納得していき、どういった職業や職場が向いているかがわかったことです。

自己分析により、実際の面接では自分自身を理解することで、自分の言葉で語ることができ、企業の面接官にも納得してもらえたと思います。そういった結果につながったのはいんくるの職員のきめ細かいアドバイスや相談のおかげだと感じています。今後はいんくるで身に付けたビジネスマナーやコミュニケーション能力やPCスキルを活かし、社会人として精進していきたいと思っています。(2016.12.内定)

◎プログラム紹介 「メモの取り方」

今回ご紹介するプログラムは、「メモの取り方」です。職場では、メモを取らなくてはならない場面が数多く発生します。スケジュールの連絡、作業内容の説明、事務連絡、電話を受けたとき、etc…。しかし、就労経験のない方や少ない方々にとって、メモ取りはとても難易度の高い技術となります。また、そもそもどのような場面でメモをとらなければいけないか、判断することも難しいです。



当プログラムでは、まず「なぜメモを取る必要があるのか」、「どのような場面でメモを取るのか」、「すばやくメモを取るにはどうしたらいいか」を解説します。そして、これらを踏まえた上で、実際にメモを取る練習を繰り返し、メモ取りのスキルアップを図るとともに、メモ取り習慣の定着を図っていきます。

メモ取り練習は、次のような手順で行っています。①職員が教材を読み上げる、②参加者がそれを書き取る、③書き取れなかった箇所は質問する、④書き取った内容を1人1項目ずつ発表し答え合わせをする、⑤書き取りが誤っていた箇所は朱書きで訂正する。読み上げる教材は、ハローワークの求人票、東京しごと財団合同面接会の案内、市報に出ているセミナーやイベントの情報、料理のレシピ、ニュース等多岐にわたっています。これらの教材を、①読み上げる速度に変化を加える、②読み上げる情報量に変化を加える、③情報内容の定型化・非定型化を織り交ぜる等、参加者の習熟度に合わせて、いろいろなバリエーションで実行してい



きます。また、就職関連の情報に関しては、適宜記載内容について解説をすることで、「求人票を見る力をつける」という派生効果も狙っています。

メモを取ることは、とても重要な行動ですが、一方で非常に難しい行動でもあります。スキルを習得するためにはとても根気が要ります。厭きずに継続してプログラムに参加いただくためには、参加している方々が、「なぜメモを取るのか」の目的意識を明確に持っていただくことが大切です。また、自らのスキルアップが体感できることも重要だと考えています。

今後もプログラム運営に様々な工夫を施しながら、参加者の就職・就労に資するような内容に仕立てていくことを心がけてまいります。
(吉田友一)

◎感染性胃腸炎などが流行しています。

寒さも厳しくなり、いんくる利用者の皆様の中にも体調を崩す人が増えてきました。また、都内における感染症の広がりも警報レベルとなり各所で集団発生をしています。私ども法人でも複数の利用者様や職員が高熱や下痢嘔吐など、感染症を疑わせる症状を訴えており特別の対応をさせていただいている施設もあります。

感染の拡大防止には、日常的な手洗いや食品への十分な加熱などの予防が大切です。また、十分な栄養補給と、不調時には早めの通院と休養など対応をお願いします。

インフルエンザウイルスや感染性胃腸炎を引き起こすウイルスは、今年度も多様な菌が確認されています。高熱や下痢、嘔吐などの症状が1日程度ですむ軽症な症例もありますが保菌状態は続きますので、疑われる症状の場合は、十分な休養をお取りください。
(鈴木 誠)

◎平成28年度 就職者の状況

平成28年度は12月1日現在で7名が企業に就職しました。

Aさん アブラック・ハートフル・サービス株式会社 様

Bさん 株式会社コヤマドライビングスクール 様

Cさん 株式会社LEOC 様

Dさん アブラック・ハートフル・サービス株式会社 様

Eさん 株式会社乃村工藝社 様

Fさん 株式会社電通そらり 様

Gさん 株式会社ベネッセソシアス 様

(いんくるからの就職者累計25名)

Take Off! いんくる通信 No.4 2017.01.01

社会福祉法人武蔵野 ジョブアシストいんくる

〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1-28-10

電話 0422-50-1701 Fax0422-50-1702

e-mail incl@fuku-musashino.or.jp

URL <http://fuku-musashino.or.jp/syougai/syougai-07.html>